

第24回 砂村新左衛門祭 ～令和3年12月11日(土)に開催されました～

内川新田開発の恩人、砂村新左衛門を偲び、その遺徳を称える行事として久里浜観光協会が毎年開催しています。

第24回にあたる今年は晴天に恵まれ、感染症対策を行った上で地域関係者の総勢22名が集まりました。

当日は夫婦橋の^{たもと}にある「内川新田開発記念碑」で献花を行った後、砂村新左衛門が祭られている正業寺（久里浜2丁目）で法要を行いました。



▲夫婦橋にある「内川新田開発記念碑」
近くには、久里浜の文化を考える会が設置した夫婦橋の歴史を解説したパネルもあります。

砂村新左衛門ってどんな人物？

江戸時代前期の土木技術者であり、横須賀市域随一の
新田村落である「内川新田」を開発した人物です。

現在の久里浜付近一帯は、かつては複数の川が流れ込む大きな入江であり、新田開発は厳しいものでした。

しかし、新左衛門は内川新田の開発に8か年を費やし、ついに新田を完成させました。

内川新田のほか、吉田新田（横浜市中区）や砂村新田（東京都江東区）などの開発でも活躍しています。

寛文7年（1667）12月15日に江戸で没し、現在は横須賀市久里浜2丁目の正業寺に墓碑があります。

この墓碑は市指定史跡とされています。



久里浜行政センター



くりはまニュースの
バックナンバーは、
久里浜観光協会
公式サイトで
ご覧いただけます。

久里浜観光協会
公式サイトQRコード

